

水稻の10月の巡回調査結果の概要

【東北信】

1 斑点米（予察ほ場の斑点米調査）【調査日：9月9日、10月14日、15日】

(1) 9月9日に佐久市、上田市、千曲市、飯山市の予察ほ場において収穫を実施した。

その後、10月14日に脱穀および粃摺りを行い、10月15日に玄米の調査を実施した。

(2) 斑点米の発生は、上田市では平年と比べやや多く、その他の予察ほ場では平年と比べ多かった（図1）。

(3) 斑点米以外の着色米の発生は、全ての予察ほにおいて平年並であった。

2 イネ黄萎病（再生稲調査）

【調査日：10月2日、7日、8日、9日、16日】

＜巡回調査地点：29地点、参考調査地点：9地点＞

(1) 巡回調査ほ場及びその周辺ほ場における調査では、再生イネ（ひこばえ）のイネ黄萎病の発生は、みられなかった。

(2) 過去にイネ黄萎病の発生が確認された地点（参考調査地点）を併せて調査（東信地域は対象調査地点なし）したところ、北信地域の2地点で発生がみられた（図2）。

発病地点率は、平年並であった。

発病株率は、1地点は平年と比べ高かったが、北信地域全体では平年と比べ低かった。

(3) 黄萎病以外では、イネ縞葉枯病の発生がみられた。



図1 斑点米の発生部位（左：頂部／中央：鉤合部／右：鉤合部外）



図2 イネ黄萎病（北信地域）

【中南信】

1 斑点米（予察ほ場の斑点米調査）【調査日：10月27日、29日、30日】

(1) 9月4日（南木曽町）、9月8日（大町市）、9月9日（安曇野市）、9月16日（諏訪市、伊那市）、10月2日（飯田市）に収穫、10月14日に脱穀、粃摺りを行った玄米を調査した。

(2) 斑点米の発生は、諏訪市、伊那市、南木曽町、大町市の予察ほで平年と比べて少なく、飯田市、安曇野市の予察ほでやや少なかった。

(3) 斑点米以外の着色米の発生は、飯田市の予察ほで平年並、その他5地点では平年より少なかった（図3）。

2 イネ黄萎病（再生稲調査）

【調査日：10月7日、9日、10日、9月22日、23日】

＜巡回調査地点：33 地点、参考調査地点：6 地点＞

- (1) 巡回調査ほ場及びその周辺ほ場における調査では、再生イネ（ひこばえ）にイネ黄萎病の発生はみられなかった。
- (2) 過去にイネ黄萎病の発生が確認された地点（参考調査地点）について併せて調査したが、発生はみられなかった。
- (3) 黄萎病以外では、イネ縞葉枯病の発生がみられた（図4）。



図3 その他の着色米（くさび米）



図4 イネ縞葉枯病（中信地域）